

# 活動プログラムシート

<貸出ツール番号：A01-03>

## 地球が病気!?



全国地球温暖化防止活動推進センター

## 1 ねらい / テーマ

地球温暖化という地球規模の問題を人間の身体と置き換えることで、地球温暖化と関連して世界各地で起きている影響について興味をもって考え、地球温暖化防止のために自分にできることを考えるきっかけを提供する。 / テーマ：地球温暖化の影響

## 2 概要

地球温暖化は地球の病気。であるならば、人間の病気「風邪」の症状と照らし合わせて考えてみよう。人間は風邪をひくと、様々な症状が出て、体のあちこちの調子が悪くなったり、痛みなどを感じたりするもの。地球温暖化も同じように様々な症状（影響）が世界のあちこちで出ている。実際にどのような症状（影響）が出ているか写真を通して考えてみよう。

- 所要時間・・・30分程度
- 対象層・・・小学3年生以上
- 適 数・・・指導者1名あたり参加者10名～20名程度（最大40名程度）

## 3 皆さんにご用意いただくモノ

※JCCCAからの貸出し物は、ツールボックスに入れさせて頂いている「チェックリスト」をご覧ください。

パネルを貼り出す場所（ホワイトボードや黒板などが望ましい）  
パネルを貼るマグネット（画鋸、ガムテープなどでも可能）

## 4 関連づけしやすいJCCCAのツール

- ツール A01-01 「ビ微々☆敏感」・・・地球温暖化の影響が多岐に渡って起こることを、温度とのかかわりを通して考えるプログラム。
- ツール A01-02 「敏感な私たち」・・・生き物を中心に、世界で地球温暖化の影響を受けている12枚の写真パネルのセット。
- ツール A04-05、06 「昼の地球～大サイズ・中サイズ～」・・・昼の地球を衛星で撮影した写真パネル。パネルを貼り出す場所が広くとれるのであれば、このプログラムに入っている世界地図パネルの代わりにお使いください。
- ツール A14-01 「未来は変えられる」・・・地球温暖化によって未来はどうなるのか、今できること、未来の自分にできることは何かを考えるプログラム。

## 5 活動プログラムの進め方（例）

### 1：準備しよう

道具類をそろえ、プログラムを行う場のセッティングを行う。ワークシートは必要な枚数コピーする。



### 2：導入（約5分）

風邪をひくとどうなる？

例)「みなさんは風邪などの病気になると、体のどこにどんな症状が起こりますか？」

ホワイトボードに「人間パネル」を貼り、風邪をひくとどこでどんな症状が起こるか、「頭が痛くなる」「鼻水が出る」など声をひろいつつ「症状マグネット（赤）」を人間パネルに貼る。

例)「地球も今、病気で熱が出ているような状態。どのくらい地球の温度は上がっているのでしょうか。」

クイズ：地球の平均気温はこの100年（※）で何℃上がった？

答え：約0.8℃



例)「たった0.8℃と思うかもしれませんが、みなさんの平熱に0.8℃足してみてください。微熱状態になりますよね。地球も今、微熱のような状態。人間が風邪などによって体のあちこちの調子が悪くなってくると、地球もあちこちで何か起きています。これから“地球温暖化病”の症状を見ましょう」

★ワンポイントアドバイス  
人間パネルは最初からは貼っておかず、話を始めてから貼る方が注目度が高まる「導入」となるでしょう。あらかじめ貼る位置を決めておき、スムーズに貼ることができるようしておくといいでしょう。

●クイズ出典  
IPCC 第5次評価報告書  
(2013-WG1) より  
(※) 正確には1880～2012年の132年間で0.85℃。



### 3 : 本体1 (約8分)

#### “地球温暖化病”の症状をさぐれ

はじめに影響写真パネル『山岳氷河-1978』『山岳氷河-1998』を使って“地球温暖化病”の一例を紹介する。

例)「この写真は“氷がとけている”症状です。どこで起こっている症状でしょうか?これはネパールのヒマラヤという高い山で起きている症状です。1978年からたった20年でこんなにも氷河が減ってしまっています。」

ホワイトボードに「世界地図パネル」を貼り、ヒマラヤの場所に『症状マグネット』を貼る。地図の周りに写真を貼る。



例)「他にも様々な症状が出ています。これからみなさんに症状の写真を配布します。」

グループに1~2枚ずつ「症状写真」を配布し、配布された“地球温暖化病”の症状写真を見ながら、どんな地域でどんな現象が起きているのか、話し合ってワークシートに記入してもらう。

例)「配られた写真はどこで起きているどんな症状でしょうか?話し合って予想してみてください。」



### 4 : 本体2 (約7分)

#### 他の症状もさぐれ!

テーブルに配られた「症状写真」はどんなものだろう?他のグループの写真と予想も見てみよう。

テーブルに、写真と記入したワークシートを置き、**※**展覧会形式にして、1つの写真につき1分ほどで見てもらい、グループ内で軽く話し合ってもらおうと良い。

#### 【写真パネル】

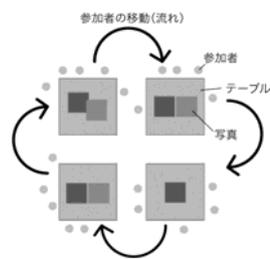
- ◎山岳氷河
- ◎海面上昇
- ◎サンゴ
- ◎ホッキョクグマ①②
- ◎竜巻①~③
- ◎集中豪雨①~③
- ◎台風
- 砂漠化
- ブナの立ち枯れ
- シナハマダラカ

グループの数や対象者に応じて配布する写真の数も調整しましょう。身近に感じるものが良いでしょう。◎印のものはわかりやすく、グループワークにオススメです。

別添の資料集も参考にご覧下さい。

★ワンポイントアドバイス  
 大人数の対応であれば「地図」の代わりにA04-03 昼の地球を使って写真を貼っていく方法が良いでしょう。

#### ※展覧会形式 (上から見た図)



★ワンポイントアドバイス  
 上記のような参加者がどう動けば良いかわかる図をホワイトボードなどに書くとスムーズに移動してもらえます。また、次のテーブルに移る時間を区切って、ベルなどで合図すると、うまく仕切れます。



### 5 : 本体3 (約5分) 症状診断! (正解発表)

どこで起きているどんな症状だったのでしょうか? グループごとに世界地図パネルに症状マグネットとワークシートを貼ってもらいながら、発表してもらおう。発表後、まちがっている部分については指導者から補足したり、他の参加者で知っている人がいたら発言してもらったりする。

★ワンポイントアドバイス  
予想してもらったことを理由なども含めて発表してもらおうと、他のグループも想像がかきたえられるでしょう。事実と違ったことを発表しても、途中で指導者がさえぎることはせず、終わった後に補足しましょう。



### 6 : まとめ (約5分) 地球も人間もおなじ

他にも実際に見聞きしたり、自分で身近で感じる症状などがあるか、声を拾いながら共有する。

“地球温暖化病”によって、あちこちでさまざまな症状がでていることを確認する。

例)「世界中にこの『症状マグネット』がついてしまっています。今挙がったものはほんの一部。他にも地球上で様々なことが起こり始めています。このまま対策をしなければ、未来の地球はどうなるでしょうか?



クイズ: 2100年の地球の平均気温は最大何℃あがる?(答え: 約 4.8℃ (※))

みなさんも風邪の症状がどんどん重くなったり、またいつまでも続いたら、どうなってしまいますか?  
地球も今、温暖化病で苦しんでいます。地球がこれ以上重症にならないためにも、私たちにできることを考えていきましょう。」

●クイズ出典  
IPCC 第5次評価報告書 (2013-WG1) より  
(※) 2100年末には現在 (1986-2005年) と比較して最大 4.8℃上昇。

★ワンポイントアドバイス  
地球温暖化病を治すために今やっていること、できることを参加者に聞いて声をひろってみてもいいでしょう。

## 6 関連情報

---

- IPCC 第5次評価報告書 第1作業部会 (2013年)  
JCCCA IPCC 特設ページ <http://www.jccca.org/ipcc/>
- 気候変動監視レポート (気象庁)  
<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>
- パンフレット「STOP THE 温暖化 2012」(環境省)
- 「不都合な真実」アル・ゴア著、枝廣淳子訳 (ランダムハウス講談社)

## 7 地域でのアレンジについて

---

### 地域の地球温暖化病の症状を探ろう

世界で起きている影響もあるけれど、身近なところで起きている異変もあるかもしれません。自分の住んでいる地域の自然や、生き物、農業、漁業、林業について調べてみたり、地域の气象台などにヒアリングをおこなってみると良いでしょう。

### 新聞から今を知ろう

2週間くらいの新聞をあつめて、世界や日本で地球温暖化に関連して起きていることの記事を探してみましょう。切り抜いてスクラップをしたり、互いに発表し合ったりしてもおもしろいでしょう。

### ● 情報提供のお願い ●

「こんなふうに使ってみたよ」「こんなデータが集まった」というような情報など、ぜひJCCCAへお知らせください。JCCCAのプログラム開発に活かし、全国へと再発信してまいります。よろしくお願ひします。